

第5回 国スポ改革タスクフォース 議事概要

1. 日時 令和8(2026)年8月26日(水)13:00~15:00
2. 場所 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階大会議室「スタジアム」
3. 出席者(敬称略、※印はオンライン出席者)

全委員19名のうち、出席16名(対面11名、オンライン5名)、欠席3名

【委員】

座長:山本浩

委員:坪井純子※、日比野克彦、森章、忠鉢信一、松井信乃、上林功、高岡敦史※、檜崎教子※、
皆川賢太郎、磯貝美奈子、坂東美紀、藤原正樹※、宮原耕史※、富樫誉、石田裕美

<欠席:稲村彰映、村松佐和子、岸郁子>

※はオンライン参加

【陪席】

スポーツ庁、全国知事会、国スポサポートセンター

【日本スポーツ協会(JSPO)】

国スポ推進部 計6名

4. 報告事項

(1) 第4回 国スポ改革タスクフォース議事概要

前回会議の議事録を作成した旨を報告。

発言等
○ 競技施設に関する議論は次回以降に議論するという認識でよいのか。
○ 次回以降の議論で取り扱っていく。(事務局)

(2) 中間まとめ(案)

資料を基に中間まとめ(案)の概要を報告。協議事項(1)及び(2)での協議を踏まえ、あらためて協議事項(3)において策定について審議することを説明。

<主な質問や意見>

特になし

5. 協議事項

(1)「I.大会の特徴」

事務局から資料に基づき説明。都道府県対抗の意義や競技区分について協議を行った。名称や選定条件等について、引き続き検討することとした。

<主な質問や意見>

発言等
○ 今回の実施競技区分に関する提案は、競技性の部分に大きく影響している。競技団体の意向は確認しているのか。
○ 現時点では、意向は確認していないが、現行制度においても、実施競技選定の際は、正式、

公開競技のいずれの区分を希望するか、競技団体の意向を調査した上で選定している。(事務局)
○ 少年種別を JG ユースとして分けることについては丁寧に議論すべきではないか。種目によっては若年層がトップレベルで活躍する競技もある。
○ 今回の提案の JG2と JG3 の違いは何か。
○ 大きな違いは、JG2 についても天皇杯の得点対象となる点である。(事務局)
○ 現時点では仮称とのことだが、最終的には JG の後に何らかの名称を付す予定はあるのか。
○ 名称については、必要に応じて、それぞれのコンセプト等の内容がわかるように検討する方向で考えている。(事務局)
○ 名称を単純に「1・2・3」とした場合、優劣を示しているように受け取られる懸念がある。それぞれ異なる目的を有する区分であることが分かる名称を検討する必要があるのではないか。
○ 開催地選定モデルについて、これまでの国スポでは分散開催であっても隣接する都道府県を中心に実施されている印象がある。新たな開催地選定モデルでは、隣接する都道府県以外の都道府県で分散開催することも想定しているのか。
○ 開催地の中核となる都道府県は必要であると考えているが、競技によっては隣接する都道府県に限定せず、広域的に分散開催することも可能であると考えている。(事務局)
○ 競技団体の枠を超えた連携についても検討していく必要がある。
○ 今回の提案は、それぞれの競技が持つ価値を改めて見つめ直す機会になるのではないかと感じている。
○ JG1のコンセプトに記載がある大会コンセプトとは何を指しているのか。
○ 国スポ全体のコンセプトを指している。(事務局)
○ JG1 については、競技人口や国際競技力等の競技性を重視する区分であり、JG2、JG3 との目的の違いを明確にする必要がある。
○ 名称については、割り切って優劣が分かるものとしてもよいのではないか。例えば、「JG Champion」「JG Grow」「JG Social」のような区分も考えられる。
○ JG1 のみならず、JG1 から JG3 までの全てが大会コンセプトを体現する競技区分であるべきと考える。そのうえで、それぞれの目的を設定し、区分ごとの違いを明確にする必要がある。 また、JG1 の選定条件については、競技団体と開催地の双方にとってメリットのある仕組みとすべきである。
○ JG2 が天皇杯の得点対象となるのであれば問題ないとする。得点対象となることで競技力向上に関する支援も受けやすくなり、望ましいのではないかと考える。
○ 競技数や参加人数の適正化について、区分を設けることについては賛成であるが競技数や参加人数が増えすぎないか心配である。規模適正化を現実的にできるのか。
○ 競技の入替や競技人数の適正化を進めるには、幅広い関係者との調整が必要と考えている。ただ、競技数や競技人数を際限なく増やすことは考えていない。(事務局)
○ 通年開催とした場合、メディアがどのように受け止めるかという視点も重要ではないか。

○ 競技区分をシンプルにすることで、運営する側にとっても観る側にとっても分かりやすい大会になると考える。
○ JG-URBAN や JG-ESPORTS は、新たな区分においてどのように位置付けられる予定なのか。また、JG2 などの区分へ組み込むことは想定していないのか。
○ 現時点では、JG の中ではあるが JG-URBAN 及び JG-ESPORTS は国スポとは別大会として位置付けている。(事務局)
○ 2036 年までは、JGEやJGUなどは、国スポとは別の大会(イベント)として開催する。2036 年以降は、国スポの中にそれら競技(種目)が、正式な実施競技(種目)として加わる可能性もある。(事務局)
○ スノーボードなど、冬季競技でありながら URBAN の要素も持ち、国スポへの参加を目指す競技については、今後どの区分を目指していけばよいのか。
○ これまでは、47 都道府県競技団体の全てが県スポ協に加盟していなければ国スポの天皇杯得点対象競技とならなかった。今後の改革では、JG2 の選定条件案にある「10 都道府県以上から選手団の派遣が可能であること」を基準としたことにより、より幅広い競技が参入できる大会となるよう改革を進めていきたい。(事務局)
○ 子供たちが憧れる大会になるように舞台を用意することが大切と考えている。
○ 地域創生の観点から見ると、JG3 は関係人口の増加につながる可能性があり、魅力的な区分であると考ええる。
○ JG1、JG2 の区分ごとに費用負担に差をつけることで、負担軽減につなげられるのであれば歓迎すべきことであると考ええる。
○ 近年は報道の価値観も変化してきている。単に勝敗の結果だけでなく、その過程や競技の内容が注目されるケースも増えており、それが大会への関心やつながりを生み出すことにつながると考える。そのためにも、それぞれの目的が明確に伝わる名称を設定する必要がある。

(2)「Ⅲ.負担軽減」

事務局から資料に基づき説明。負担軽減に関する意見を伺った。各改革を積み上げることにより、負担軽減に繋げていくこととした。

<主な質問や意見>

発言等
○ リハーサル大会を含めて、負担軽減を検討する必要がある。
○ 負担軽減については、単に経費削減を目指すのではなく、投入した費用に見合う効果や成果が得られる大会とする視点が必要ではないか。
○ リハーサル大会は、本大会に向けて運営ノウハウを習得する機会であり、大きな負担というよりも必要な取組であると考ええる。また、審判員の育成など開催によるレガシーも残っている。一方で、式典についてはレガシーとして残る要素が比較的少ないことから、簡素化には賛成である。
○ 国スポサポートセンターとの連携を強化することにより、前例踏襲に依存した運営手法を見直すことができるのではないかと。

○ 佐賀大会では、一度ゼロベースで必要な取組を整理したうえで大会準備を進めた。開催県として柔軟な発想で対応することができた。
○ 今後は、開催地域の実情や特性に応じて柔軟に大会準備を進められるよう、様々なアイデアを提案できる仕組みが必要である。一方で、その場合の意思決定主体を明確にしておく必要がある。
○ 岐阜国体では 42 市町村と連携し、岐阜県全体を盛り上げるための施策の一つとして大会を開催することができた。地域活性化にもつながったと考えている。
○ JSPO や国が今後、立候補制により開催地を選定していくに当たっては、開催県にどのような体制を求めるのかというメッセージを示せる改革とするべきである。また、スポーツ主管課だけでなく、観光、地域振興、教育など関係部局も含めて、開催県全体で大会を盛り上げる体制づくりを促す必要がある。
○ 宮崎県の予算について、より詳細な使途はわかるのか。金銭的負担を減らすべきという声があるが、地域活性化に効果のある支出であれば、単に金額の多寡だけで判断するべきではないのではないか。
○ 国スポの開催に当たっては、施設基準をはじめ、最低限達成すべき基準や対応事項が定められている。これら基準等への対応により生じる負担の軽減が知事会としての要望である。
○ 経費が変わらない場合であっても、その支出に見合う効果や成果が得られれば開催県の納得感も高まるのではないかなと思う。
○ 競技施設や競技環境の整備についても、今後の議論の対象としていただきたい。施設基準の弾力化には一定の限界があると考え。また、広域開催を進めることで、例えば広域周遊パスの導入など、民間企業との連携による新たな効果を生み出すことも可能ではないか。
○ 広域周遊パスの導入は厳しいが、交通事業者等が連携することで、移動手段をまたいだ支援やサービスの提供も可能ではないか。
○ 負担軽減策のみを示すのではなく、大会開催によってどのようなリターンや効果が得られるのかを示すことができる資料や検討も必要ではないか。

(3)中間まとめの策定

協議の結果、委員から出された意見を踏まえて中間まとめ(案)を修正し、最終的な文言の調整を座長に一任することについて了承した。

<主な質問や意見>

発言等
P. 3
○ 国スポの不変の価値には、47 都道府県対抗と記載があるが、コンセプトにも記載すべきではないか。
○ 知事会としては、今後総合成績の改革案が示された際に、都道府県対抗の仕組みも改めて見直すべきという意見が出る可能性もあることから、都道府県対抗を「不変の価値」として記載することは避けてほしい。(19 ページも同様)
○ 「不変」を削除。「47 都道府県対抗戦を発展」等に変更する。(事務局)

○ 4つの式典を1つに統合するとの記載については、国スポ・障スポを合わせて1つの式典とする認識でよいか確認したい。
○ JPSAとしても、その認識のもとで議論を進めているものと理解している。
P.9
○ 47都道府県対抗の考え方を維持しつつ、それが資料に示された4つの価値とどのように関係しているのかが分かるような表現とするべきではないか。
P.10
○ ⑤の新たな実施競技区分について、JG1が最上位に見えるため横並びにするなど、優劣を示すものではないことが伝わるように改善すべきである。
P.14
○ 国スポサポートセンターは今後どのように関わっていくことを想定しているのか。
○ 国スポサポートセンターには施設整備に関する知見を有するスタッフが配置されている。そのため、施設整備に関しては、国スポサポートセンターが中心的な役割を担いながら支援していきたいと考えている。(事務局)
その他
○ 「トップアスリート」という表現が多数出てくるが、「トップアスリート」がどのレベルまでを指すのか、競技や年代によっても変わってくる。国スポの場合、都道府県を代表する選手という意味合いや、若いアスリートの育成、地域で育てる、という意味合い・意義もあるので、全て「トップアスリート」という表現ではなく、広く「アスリート」という言葉を使ったほうが良い場面もあるのではないか。
○ JG1～3という表記は優劣を想起させるため、資料上の仮称を、JGX～Zなどに変更してはどうか。

以上